

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 日本福祉介護サービス	代表者	鈴木正雄	法人・事業所の特徴	小規模多機能型居宅介護支援事業所 在宅で過ごされている方の訪問サービス、通いサービス、宿泊サービスをご本人ご家族の要望や都合によりお話し合いをさせて頂きながらサービス提供を行い、緊急の際には計画にない利用にも柔軟性を持って対応のできる事業所。
事業所名	すずかぜ	管理者	鈴木 治雄		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	4人	3人	0人	1人	1人	0人	14人	0人	23人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	PDCA サイクル後、成果が確認出来る体制を作り、ご本人、ご家族、職員共に理論に基づいた介護過程を確立する。	現状理解を多角的にする為に、AIを導入し、職員、AIで多角的に分析し介護方法の理論づけが出来た。	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が難しい。 ・職種、環境に違いがあると思う。100%の近い環境作りがあってもいいと思う。 ・利用者本人の個人状況に合わせた適切な支援が出来ているようで良いと思う。 ・端末・支援経過表等で利用者の情報共有、確認が素早く出来ているのも良いと思う。 	職員全員で事業所改善計画を理解して業務に取り組む。ミーティング等で定期的に取り組み状況についての確認を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	開かれた施設づくりを目指すために、広報（ホームページ、紙面）を通じ、現法に基づいた地域の中での役割を認識し、地域の民生員、相談員をはじめ地域と共に共存共栄をしていく。	ホームページ、広報誌が充実され地域、ご家族に毎月更新の情報を提供出来るようになった。民生委員の方と協力しながら、お客様を見守る目を増やすことが出来た。	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしいと思います。 ・情報の発信は必要であるが、何を求めているかを把握する事ではないでしょうか。 ・Cと連動しますが、広報誌等が継続的に発信していく姿勢が大事だと思います。手間がかかりますが、関わりを続けていくことが成果に繋がります。 ・継続して頑張ってください。 	広報（ホームページ、紙面）を通じ、地域へ情報発信していく。地域の民生員、相談員をはじめ地域と共に共存共栄をしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナウィルスの兼ね合いで、接触行動を控えています。今後は、ICTツール（ZOOM、テレビ電話等）を使い発信する術を確立します。	ICTツールの利用に関して、ソフト導入し実践はしているが、全ての方が利用できる状態ではなかった。訪問、紙面等通し関わりを図った	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の努力を続けてほしい。 	直接的な参加だけでなく、ICTツール（ZOOM、テレビ電話等）を使い発信する術を確立する。自治会、地域活動等が再開されたら、参加機会を設ける。

			<ul style="list-style-type: none"> このような時期は、大きな活動はなかなか出来ないとおもいます。 お客様、各委員の方々には個別に訪問して話し合うのもいいのではないかと思います。 ケース毎に地域の方と関わる視点を持つと、もっと地域との関わりが深まると思います。 コロナ感染の予防・対策で大変な時期なので、無理のない取り組みで良いと思います。 	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>すずかぜサロンを開始し、上述したコロナウィルスの懸念もあるが、感染対策をしながら定期的実施していく。</p>	<p>出張講習を第一包括様にお誘いいただき実現できた。自社独自では、難しく定期開催までは至っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 包括、利用者、家族の協力を得て少しずつでも向上して欲しい。 勉強会の要請には、お応えしたいと思います。どうぞお声かけ下さい。 	<p>すずかぜサロンを開始し、コロナウィルスの懸念もあるが、感染対策をしながら定期的実施していく。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>全体共有方法を改善、1つのツールで経過が追える仕組みを作り、いつだれが見ても分かりやすい帳票作成をしていく。</p>	<p>全体共有方法は、クラウドサービスを使い各段に良くなった。帳票類に関しては、移管期となり現状では、同じ帳票が紙面、データ上にあり確認動作が増えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が快適に安心して過ごせるように、すずかぜの認知度向上が目標。 このままでいいと思います。サービス提供記録（利用者控）で本人の様子・特記事項等は、定期通維持、担当医師との面談で大変参考になります。 	<p>1つのツールで経過が追える仕組みを作り、いつだれが見ても分かりやすい帳票作成をしていく。職員が輪番で参加できる機会を作り、職員全員がご家族や地域の方々に関われる機会を提供する。</p>
F. 事業所の防災・災害対策	<p>感染症や災害が発生した場合であっても、お客様に対して必要なサービスが安定的・継続的に提供していく。</p>	<p>悪天候により、警報が出た場合には避難困難お客様を保護し、安全を担保することをしていた。感染予防は、職員徹底は勿論のこと書面口頭にて、お客様・ご家族にも周知し対応できた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> この問題は事業所だけでは難しい。 災害が多くなっているように思います。各災害に合った避難訓練は勿論。村の消防団、消防、防災士の方々を招き、実践、教育を続けていくことが大事ではないでしょうか。 	<p>備蓄のリスト化や必要物品の確認、整理を行う。</p> <p>定期的に防災計画の確認を行い、お客様やご家族様地域の方々へ災害時の対策について説明をする。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・職員側の意見だけでなく、ご利用者、ご家族の周知が図れたことは、素晴らしいと思います。頼られる「すずかぜ」としてよろしくお願いします。 ・繰り返しの訓練が非常時には必ず生きると思います。引き続き改善に努めて下さい。 ・警報時の連絡・コロナ感染予防良いと思います。継続願います。 	
G. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた資料だけでは、AI 導入状況、成果が確認できませんでした。ぜひ現場を見せていただければと思いました。 ・コロナ禍の下で、職員は大変な思いで仕事をされていたと思います。自己評価、厳しすぎなく、改善計画は、ゆとりある体制づくりを優先して下さい。 			